**大会前に子供達に話していること＆保護者の方々へのお願い。**

大会前に子供達に話すことを以下にまとめますので、長いですが、ご一読頂けますようお願い申し上げます。

 これらを伝える目的は勝ち負けのある競技大会ではあるけれども、ただ競技としての結果を残せば良いということではなく試合を通じて多くを学び、大きく成長する事が目的です。

 **目的及び指導方針**

当道場の目的及び指導方針は空手道の指導を通じて健全なる心身の鍛錬と人格の陶冶、不撓不屈の精神を養成し良き社会人を育成することを目的とすることにあります。

 ・道場生達が親から離れたとき、社会に出た時にいかに通用する人材を育てる事。

・道場生たちがより多くの人に可愛がられる存在になる事。

・身に起こる事をいかに前向きにとらえ、進む方向を決められるようになる事。

・与えられることが当たり前ではなく、見返りを求めず誰かの役に立てる事。

・本来誰もがもっている無限の器をどれだけ拡げ、自立して考えられるよう大人がサポートする事。

そんな人材育成、教育指針をもって子供達と接しています。

**～子供達にいつも話していること～**

1、自分の準備は全て自分で行なう。

試合をするのは自分自身なので、自分で責任をもって準備をすることで人に頼らない心構えを持つようになります。

2、会場アリーナ入り口での出入りは、道場と同じように一礼をする。

（保護者の方々もお願い致します) 審判服を着た先生方や知っている顔の先生方、先輩方がいらしたら自分から挨拶をする。

3、トイレのスリッパや靴は揃える。

大人でも平気で脱ぎ捨てていきますが、これを子供達が見ています。スリッパや靴の乱れなどの些細ことに気がつく子は稽古や私生活でも気付きの多い子になると思っています。

 4、対戦相手に感謝の気持ちを持つ。

相手は敵ではありません！最も自分を強くしてくれる協力者です。親からすればお子さんを最も強くしてくれるお世話になった人物ですので相手を罵倒するような応援など以ての外です。また試合後は勝敗に関係なく、相手に挨拶をしましょう。

5、負けた原因を誰かのせい、何かのせいにしない。

試合では色々な事が起こりますが、そこで負けた原因を自分の中に見つけられず相手がこうだったからとか、中々審判にポイントをとってもらえなかったからなどに起因し、物にあたったり、誰かのせいにしているうちは自分の成長はありません。※1(補足)　裏の下段参照

6、自分の試合が終わったら、今度は仲間の応援をする。

　普段一緒に稽古している仲間、先輩、後輩の応援をしてあげて下さい。

基本個人競技ではありますが、人間、一人で成長して、勝手に強くなることはありません。普段一緒に稽古している仲間がいて、先輩がいて、後輩がいて、皆で支えあって強くなっていっているということをこういう機会に教えて頂きたいと思います。出来るだけ最後まで残って応援をお願い致します。※2(補足)最下段参照

7、試合結果報告を先生にする。

(黙って帰ったりしない。但し、各係りになっていたりするので、物理的に出来ない場合には後日道場で大丈夫です。)

8、閉会式が終わってから、観客席のゴミ拾いを行なう。

自分の席、また他道場の席でも、気がつけばゴミを拾い「来た時より綺麗にして返す。」ということのご協力をお願い致します。　保護者の方々が率先してご協力頂けましたら幸いです。

 ９、開会式閉会式は座って話を聞く、私語をしない

稽古中も保護者の皆様には、ご協力いただきありがとうございます。子どもが真剣な時に大人も私語をしないで見守ると効果倍増です。閉会式は勝った人をたたえてあげるものだと教えてあげて下さい。

１０、入賞したからと言って威張らない。

Ａ君は一回戦負け、Ｂ君は３位としてもＡ君の相手はものすごく強くＢ君はトーナメント的に勝ち上がりやすかったなど様々なケースもありますが、重要なのは持てる力をすべて出して戦ったか、**過去の自分より成長したか**にありますので優勝したら小遣いを上げるなどの約束はやめてください。今までの経験でこのケースは思春期過ぎあたりで「自分は勝たないと価値がない。」と思い始めたりします。ご褒美なら出場したことやそこまでのプロセスに対してがよいと思います。

総括しますと試合は普段の稽古や、そこまでの生き方の答え合わせと言えます。うまく活用してこれからの人生に役立ててください。

**保護者の方々へのお願い**

子は親の鏡です。同時に子供達は指導者の鏡でもあります。

**｢返事だ、挨拶だ、玄関の靴を揃えろだ、いちいちいう必要はないよ、先輩達がだまってやって見せれば良い。そうしたら下の子達は自然に変わる。｣**と先輩たちに常々言っています。試合場で帽子をかぶらない、食事は決められた場所で食べる、試合場は道場と同じで遊びまわったりしないなどのルールを大人が背中で見せてあげて下さい。例えば開会式などで大人が私語をしていれば、それを見た子供は「ここはそういう場だ」と判断しふざけたりします。保護者に先輩も後輩も勝ちも負けもありませんが、お子さんが武道を始めたら保護者の方も「武道家の親」として共に一歩を踏み出して下さい。

私は数ある花の中で、桜がとても好きです。（2番はひまわりです。）、桜のようにいっそパッと散ってしまいたい・・・などとは思いませんが。

最初から綺麗な花が咲くことはありません。たどれば枝葉があり、幹があり、樹があり、その大元には根っこがあり、土があります。一つでも欠くことなく、長い時間をかけて健全に育った樹に初めて綺麗な花が咲きます。

また試合結果も大事ではありますが、桜の話と同じで試合結果は長い人生の一瞬の結果であり、これが全てではありません。　試合に至るまでの過程、どれだけ頑張ってきたのか、一生懸命やってきたのか、ただなんとなくやってきたのか、その過程が一番大事な部分です。

保護者の方々が子供達の習い事について感心があるのかないのか、ご家庭でどんな話しをしているのか、それだけでも子供達のモチベーションや結果に繋がる稽古過程はまったく違ったものになります。それらも子供達に伝わっています。

そして試合後結果をどう捉え、次に生かしていくのか、親子で一緒に考えて頂くきっかけとして頂き、その過程を伝え次に生かしてくれれば良いと思います。

負けることはチャンスを貰うということです。そこから学ぶことのほうが多いのと、そこからどう立ち上がるか、起き上がるか、進むのか、その心の在り方がもっとも大切なことだからです。

人間は完璧ではないので、完璧である必要もなければ、求める必要もありません。何が何でも障害を乗り越えろ、ぶち壊せということではなく、人生どうしようもないとき、心のやり場がないときもあり、ときには逃げることもありだと思います。逃げて良し、泣いて良しと思います。

ただ、我々大人が背中で見せていける生き方が出来れば自然と世の中も、子供達も良くなると私は信じています。

最後に試合場に立つ事だけで立派な事です。子供達が頑張って帰ってきたら、笑顔でたくさん褒めて上げて下さい。

極真会館　城西世田谷東支部　田無道場分支部長　佐野忠輝

**※1**基本自己責任論です。人生生きていれば必ず何かが起こります。しかし起こりうることはもちろん不可抗力もありますが、よほど隕石が落ちてきた、車が突っ込んできたなどない限り、自らに起因することがほとんどです。試合で言うならば、人間が審判をしている以上何かあることが当たり前と考えて下さい。ましてや海外の試合に出れば誤審や地元贔屓など普通です。

でも審判の先生は先生で一生懸命やってくださいます。であれば、絶対に相手にポイントをとられないような試合運びをすればよいだけです。　技を出してどっちかな～、とか、相打ちで相手に旗が上がって俺のほうが早かったのにという認識など、挙げれば色々ありますが、それら全て、文句がつかないような試合運びをする。ということ。

それからもっと大事なのはそれらが起きたときに、次にそうならないように自分がどう考え、どう善処できるかの過程です。それらをご家庭でもお教え頂ければ在り難く存じます。

勝っても負けても正々堂々としていれば良いです。自分も経験しているので、悔しいことは分かりますが、むしろ負けたときに人としての真価が問われると私は考えます。

**※2**自分の試合が終わってその辺で遊んでいたり（保護者がおしゃべりに夢中で悪ふざけを放置していたり）、用事があるので帰っていいですか？ということもあります。確かに便利な言葉ではあるのですが、用事があるのでという言葉をできる限り子供達に言わせないで下さい。

大体｢もし勝ち残ってて、賞状がもらえたとしても帰る？｣と私は聞きます。子供達が困ります。

もちろん小さいお子様をお連れのお母様や、本当に何かあるときもありますので、これが全てではありませんので、そのときはまったく問題ありませんが、ほかの事もできるから終わってしまったし早く帰りたいという場合をさします。

 審判手伝いなど運営の皆様は家庭があり仕事があり、彼女との約束を断って後輩たちの為に試合を運営しています。これを思ったら負けたからと言って帰るのはいかがなものでしょうか。子どもたちには、運動会は終わるまで帰らないよね。と言っています。

普段大変なお仕事が在る中で、子供達に割いて下さっている貴重な休日ですので、当然だと思いますし、様々な考え方があるのでそれらを一切否定するものではありません。また、必ずしもそれを強制をするものではありません。

ただ、我々は子供達には前述したようなことをしっかりと伝えていきたいので、可能な場合にはご協力を頂けましたら幸いです。

過去に「あなたは試合場でお友達の応援や、次に向けて勉強しなさい。お母さんたちはショッピングモールで時間をつぶして試合が終わるころ迎えに来るからね。」というご家庭がありました。まだ低学年くらいだと難しいですが、素晴らしいと思いました。（彼は今も社会人として稽古を続けています。）